

新型コロナウイルス感染症対策の進捗に関する関係閣僚会議（第1回）
議事概要

1 日時

令和3年6月23日（水）16時52分～17時20分

2 場所

官邸4階大会議室

3 出席者

菅	義偉	内閣総理大臣
武田	良太	総務大臣
田村	憲久	厚生労働大臣
赤羽	一嘉	国土交通大臣
加藤	勝信	内閣官房長官
河野	太郎	国務大臣
西村	康稔	国務大臣
和泉	洋人	内閣総理大臣補佐官
吉田	学	新型コロナウイルス感染症対策推進室長
福島	靖正	厚生労働省医務技監
小野	日子	内閣広報官
大沢	博	内閣審議官（内閣官房副長官補代理）

4 議事概要

- 厚生労働大臣から、資料1に基づき、最近の感染状況等について説明。
- 西村国務大臣から、資料2に基づき、人流の増加等について説明。
- 河野国務大臣から、資料3に基づき、ワクチンの接種実績等について説明。
- 国土交通大臣から、所管企業の職域接種の申請状況等について説明。
- 総務大臣から、市区町村におけるワクチン接種の取組等について説明。

○意見交換

（河野国務大臣）

- ・ 来年（2022年）以降のワクチンの調達戦略について、そろそろ議論をしていく必要がある。

(厚生労働大臣)

- ・ 来年は、モデルナ社とノババックス社で計2億回分のワクチンの供給を受けることを前提に協議中である。ブースター効果についても検証しながら、議論していきたい。

(内閣総理大臣)

- ・ 関係大臣の間で調整して、方向性を出していただきたい。

(国土交通大臣)

- ・ 職域接種用のワクチンが十分なのかどうか、見通しを教えてください。
- ・ 在外勤務者は住民票がないので職域接種の対象になっていないと聞いているが、接種できるように工夫していただければありがたい。

(河野国務大臣)

- ・ モデルナに対する需要が自治体の集団接種、職域接種と大学拠点接種でほぼ上限に達しており、今晚にも申請を一時止める発表を行う。6月25日(金)まで申請を受け付け、その後、精査して隙間が出たところをまた次に向けて入れていくことになる。

(内閣官房長官)

- ・ 7月中旬以降において、在外邦人の方が一時帰国して接種していただく枠組みを作るべく準備している。具体化できれば、直ちにお知らせしたい。

○内閣総理大臣ご発言

- ・ 新型コロナ対策について、関係閣僚がその状況や進捗を共有し、一日も早く安心の日常を取り戻すという目標に向かって、今後の対応について議論するために、関係閣僚会議を開催した。
- ・ 全国の新規感染者数、重症者数は減少傾向が続いており、病床使用率も先月末の49%から25%まで減少するなど、大きく改善している。
- ・ 一方で、首都圏では新規感染者数が下げ止まっており、特に東京では、この1週間の感染者数が1割程度増えており、リバウンドへの強い警戒感を保つ必要がある。対策を徹底し、状況に応じて対策の強化を含め機動的に対処していく。
- ・ 変異株に対しても警戒を続けていく。インドで最初に検出されたデルタ株に対しては、全ての都道府県で検査を行っていく。
- ・ ワクチン接種については、直近1週間では800万回を超えて増えており、総接種回数は3,400万回に達し、1回接種した高齢者は、高齢者人口の半数程度になっている。
- ・ こうした中で、新規陽性者に占める高齢者の割合は先月末の17%台から直近では11%台まで低下している。医療機関で発生するクラスターの割合は、医療関係者への接種が始まる前の2月中旬には29%だったが、直近では3%となっている。

- ・ 今週から、企業や大学での接種が本格的にスタートしていく。私も早速、会場を視察し、現場の方々から、安心して仕事ができる、こうした声を伺った。一方で、昨日（6/22）までに、3,700 か所、1,500 万人という大変多くの申請があった。こうした状況を踏まえ、内容を精査した上で、今後とも円滑に接種できるよう、適切に対応していく。
- ・ 各大臣におかれては、お互いに連携しながら、スピード感を持って、先手先手で、対策を進めていただくようお願いする。

以 上